67期生

3年生学年だより

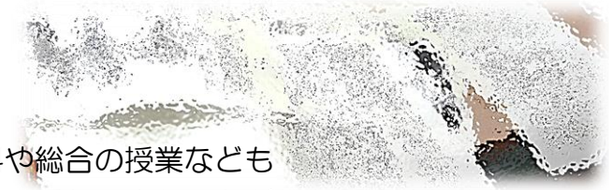
豊中市立第五中学校　2021 年２月 16 日（火）　No.46

＜ゆきの選択＞

12 月 15 日（火）、22日（火）1 限

『夢バトン～はみごのないまち・学校づくり～』

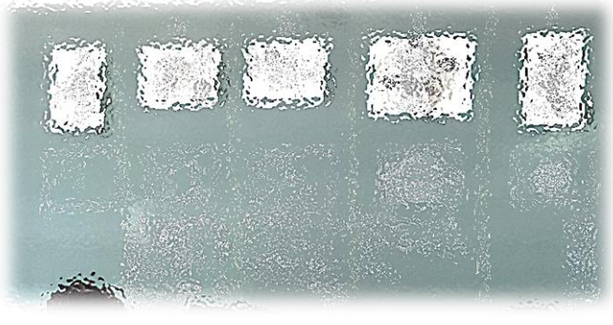
この五中で大切にしてきた言葉は、
＜差別がない、誰もがそのままで大切にされるまちづくりをめざした人々の願いを受け継ぐもの＞なのです。



67 期のみなさんが、小学校から９年間で学習してきた体験学習、教科や総合の授業なども思い出すと、たくさんの人権学習を積み重ねてきたことがわかりますね。

今回の道徳では、読み物教材『ゆきの選択』を読み、人権学習をしました。

読み物は、ゆきの学校でならった人権学習の部落差別について、下校途中の友だちどうしの会話からはじまります。自らの立場を２人に打ち明ける亜矢、共感する広美、葛藤する主人公ゆきとゆきの家族が登場します。ゆきは、友だちどうしのかかわりや家族の思いにふれる経験を通して、立ち上がる勇気が自分の中から生まれるのを感じ、自らの生き方を自分自身で選択しようとしていきます。



授業では、差別を乗り越えようとするゆきの友だちや家族の生き方にふれ、ゆきの家族やなかまからの『信頼』と『励まし』がもつ力に気づき、感じとることの大切さを学びました。

◆「ゆきの選択」を読んで、感想を書きました。＜一部抜粋＞

○　ゆきは、帰り道では自分の思いを素直に言えなかったけど、電話では素直に言うことができたこと。広美と感じたことを分かち合うことができて、心が軽くなったと思う。

○　ゆきは、最初は、自分が思っていたことを言えなかったけど、お母さんが話を聞いてくれたり、友だちが心配してくれたりしたから、心が軽くなったと思う。

○　誰かに相談したら、気持ちが軽くなると思う。何か解決しなくても、誰か大切な人に話すことは大切なんだと思った。でも、簡単ではないということもわかった。

○　差別をなくすために、ゆきは、何かしたいと悩んでいる人は、自分だけじゃないと思って、安心できたこと、心に余裕ができたことで心が軽くなったと思う。

○　人の気持ちを理解して、安心したこと。元気をもらった。

○　「自分は自分の考えをもつ」ということに、ゆきが気づけた。

○　自分のことで心配してくれる友だちがいたから、元気をもらえた。

○　どんな人でも、見た目や身分で判断せず、とりあえずかかわってみることが大切だと改めて思った。

○　１ 人ひとりの根強い固定概念があるから意識が変わらないのだと思う。差別をなくすためには、その固定概念を取っ払わないといけない。

◆卒業前や卒業後のことでも、自分がこれから何をしていきたいか、何をしなければならないか、考えました。＜一部抜粋＞

○　1 人で悩んでいる人がいたら助けたいと思うし、自分も何かこまったら、相談できたらいいなとおもう。卒業まであと少し、みんなで協力し合って、精一杯がんばりたい。

○　いじめたり差別をしたりしている人は、もし、自分が同じことをされて、いい気持ちになる人はいないと思うので、いじめや差別をなくしていくべきだと思う。

○　これから色んな人に会って、たくさんの経験をすると思うけど、何にでも否定から入らず、そのときは、何でも受け入れてあげられるようにしたい。

○　職場体験で障がい者施設で 3 日間体験し、そこでも「人権」のことを人一倍、知ることができた。その施設で住んでいるおばあちゃんと 1 時間ぐらい話をして、おばあちゃんの娘の話や昔の話を聞いたりして、おばあちゃんと仲良くなった。そのいろいろな経験を得て、お世話になった人たちや家族とかに「一人ひとりに感謝を述べたい」と思った。

○　卒業して、たぶんもう二度と会わない人もいるから、普段通りにゆっくり話せる時間を大事にしたい。あと、しゃべったことない人ともしゃべりたい。

○　クラスのみんなの相談を聞いてあげたい、みんなを笑顔にしたい。

○　卒業まであと少しなので、これまで以上に友だちとのつながりを大切にし、友だちが困っていたり悩んでいたりしたら、しっかりと相談にのり、この 3 年間あまりかかわりがない人とは、特にかかわっていきたい。

○　新しい環境でもいろいろ話し合える友だちいっぱいつくりたい。もちろん、差別とかそんなんなし。もし、してる人おったら戦う。おれらがなくさんとあかん。

○　悩んでいる人たちと話し、少しは楽にさせたい、楽になりたいし、お互いに助け合いたいと思う。自分 1 人で抱えこまず、誰かに言える、言われた人は差別につなげず味方になれるような 67 期にしていきたい。

○　話したい誰かがいるということは、幸せだ。この話を今後大切にしていく。

○　これからは、たがいに支えあえる、分かち合える社会づくりに少しでも貢献し、考えるようにしたい。

○　卒業を前にして、なかまどうしの助け合いも増えてきたように感じる。

○　学んだことは、人とのつながりを大事にするということ。なぜなら、相談できる相手などいなくなったら、自分の気持ちがどんどん重くなって苦しくなるから。

○　みんなとすごす時間を大切にしたい。クラスですごす時間、班ですごす時間を大切にしたい。特に、友だちが悩んでいるときは、相談してほしいし、自分が悩んでいるときは、相談にのってほしい。

○　勝手に○○だからと決めつけて、自分も知らないうちに差別していたかもしれない。差別された人や家族は苦しんでいることを理解して力になったり、話をきいてあげたりしたい。身近なちょっとした差別を気づいてなくしていきたい。

○　なかまが差別で苦しんでいたら、自分はいつまでも、となりにいたい。

○　五中のときに、「ふれ愛子どもカーニバル」にも参加していたので、そういうボランティアとかやってみたいと思う。

○　世界中で今も『差別』に苦しんでいる人たちがいることもこの 15 年間で学んできた。中学を卒業し、社会に出られる年齢になった以上、情報を常に客観視し、双方の意見を聞いたりして、知りたいことは自分で調べるようにしていきたい。

差別やいじめは、それを受けている人の周りの課題です。

● 差別をなくすため、知らぬふりをしたり、「関係ないよ、気にしないで。」で終わるのでなく、**一緒に解決に向けて考え取り組もうとすることが大切**です。

● なかまがもしも差別に出会ってつらい思いをすることがあったとき、それが『おかしい』と気づけるためには、**正しい知識を身につけることが必要**です。みなさんが学んだ『統一応募用紙』や『面接の違反質問を見分ける力』などはこれにあたります。

ここまでつかんできた『正しい知識』と『人とのつながり』をにぎりしめ、25 日の酒井さん、重本さんの聞きとりに臨みましょう。

一人も残さず

最後の一人まで